

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 4 回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（仮称） 策定懇談会
開催日時	平成 2 8 年 2 月 8 日（月） 1 3 時 3 0 分～1 5 時 3 0 分
開催場所	高松市役所 1 1 階 1 1 4 会議室
議 題	(1)瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（仮称）案 について (2)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長、嘉門副会長、熊委員、佐野委員、島田委員、 滝川委員、常川委員、徳増委員、三井委員、宮本委員、 好井委員、頼富委員
傍 聴 者	1 人 （定員 5 人）
担当課及び 連絡先	政策課（839-2135）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題(1)瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン(仮称)案について

【別添資料により、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（仮称）
案について事務局から説明】

(会長)

最終的に良いビジョンをつくることが目的である。そのためには具体的
にどうすればよいかについて端的な御意見をいただきたい。

(副会長)

圏域の現状について様々なデータが示されているが、その分析が書
かれていない。例えば、1 2 ページを見ると小豆島、栗林公園、屋島
の観光客数が記載されているが、インバウンドの影響や、宿泊者の状
況などの観点から分析し、このデータを行政としてどう考えているか
を添えることができないか。同様に、1 3 ページの大学・高等専門学
校の学生数のデータについては、卒業後の進路から、1 9 ページの医
師数の状況については、診療科別医師数などから分析ができないだ
ろうか。現状のデータについて行政としての分析を示した上で、懇談
会で議論し、目標設定を行ったとなれば、この基本構想が活きてくる。

また、将来の人口の目標を 2 0 2 3 年に 5 7 万人と設定している
が、これは、具体的に何をすることによって達成されると考えている
のかが書かれていない。これを書くことが出来るようにするためにも
データの分析が必要である。

会議経過及び会議結果

(委員)

圏域内の市町間だけでなく、各市町内部の関係課間の連携も重要である。

経済産業では、この圏域には、隠れた観光資源が有り余るほど存在している。その掘り起しが高松市の掲げる創造都市につながる。

また、高次都市機能では、病院・医師が高松市と三木町に集中しているが、圏域内の何所に住んでいても安定的な医療が受けられることが、人口減少の抑制につながると考える。

(会長)

新たに病院を建てるということではなく、病院から離れたところに住んでいても、医療を受けやすくするためにはどうすればよいかという利用サイドから考えることが大切である。

(委員)

ビジョンでは、8年先の人口を目標に置いているが、それから先の人口減少はもっと大きくなる。

そこで、長期的な課題としては、圏域全体のバリアフリーの推進が考えられる。バリアフリーが進むと、住んでいる人も動きやすいが、外国から来た人も動きやすい。例えば、オーストリアでは、跨線橋などはまずない。ところが圏域内の鉄道を見ると、琴電はある程度バリアフリーになっているが、JRは進んでいない。これが改善されれば、外国から来た人の評価も上がるのではないか。

(委員)

策定趣旨では、「経済を活性化し、圏域全体の魅力を高めるとともに、住民が安心して快適に暮らすことのできる圏域を形成する」とあるにもかかわらず、K P Iの項目が観光に偏っており、アンバランスである。鉄道、空路、航路の強化をK P Iの項目としているが、一方で、道路整備を抑制して、車社会を脱する取組はされているのだろうか。世界の名だたる都市では、街中の自動車利用を制限している。高松市でも街中の自動車利用を制限し、住環境を向上すべきである。

また、圏域内には、かなりの数の公共施設があるが、今後、人口減少が進む中で、これらの維持管理を考えると、民間に施設利用に関してインセンティブを付与する代わりに、適切な維持管理を行なってもらうといった新たな手法をビジョンに組み込んでいけないだろうか。

(委員)

K P Iに違和感がある。事務局に項目と目標値の設定根拠を教えてください。

(事務局)

前提として数値がとれる項目であるということ、また、先進都市のK P Iも参考にしている。

圏域全体の経済成長については、戦略的な観光施策を行う観点、及び人口減少の観点から項目を設定した。

次に、高次都市機能については、圏域の特徴を考慮し、陸、海、空という観点から項目を設定した。また、それぞれに関する個別計画との整合をとりながら目標値を設定している。

次に、生活関連機能については、人口減少の観点から、各自治体が策定

した人口ビジョンを利用している。

(副会長)

生活関連機能についてのKPIで、若者世代の人口を置いているが、掲載されているデータとの関連が薄く、唐突な感じがする。現状を踏まえての目標設定を行うべきである。

(事務局)

この冊子を見た人が、この圏域では、こういう課題を抱えていて、こういう方向に進もうとしているのだなと理解してもらえることが大事だと思っている。

ここまで手続きを経てきていることもあり、どこまで修正を入れることができるかについては、事務局にまかせていただきたい。

(委員)

21ページの目指すべき将来像で、「輝きと活力にあふれ」とあるが、「輝き」とは何を指すのかが漠然としていてよくわからない。人口減少を抑制するという観点ならば、「にぎわい」だと思う。

また、瀬戸内国際芸術祭については、これが瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の特徴といえるのだろうか。観光を目的に行われるのか、芸術家の育成を目的に行われるのか、何を目的として行われるのかが見えてこない。

広域的公共交通網の構築については、取組事業が、ICカードの利用しなく、ハード面の取組がかなり抜けているのではないか。データを分析して、行政としてこうしたいということが見えてこない。これから先、見直しをしながら、良いものにしていただきたい。

(委員)

「輝き」という言葉は、コルビュジエの輝く都市、シビックプライド、都市や地域の誇り、そこで生きている自分らしさの発見などを表したものだと思う。

ただ、男木島には、これだけ若い人たちが移住してきたにもかかわらず、未だに光ケーブルが通っていない。そんなことも解決できないのに何か大きなことを言っても仕方ないのではとも思っている。

瀬戸内国際芸術祭もそのために始めたのだと思っている。北川フラム氏が本心としてやりたいのは、その地域、島の人たちの誇りや文化を、もう一度、他の人に注目させる中で、自分たちでも実感することである。輝ける島になって欲しい、そういうストーリーである。

また、細かいことを言うと、21ページに希少糖、盆栽、オリーブ、ワインという地域資源を具体的にあげているが、ワインをあげるのであれば、伝統的な資源である醤油や、人間国宝が3人もいる漆芸、石材ぐらいは記載していただきたいかった。

また、KPIの指標のところで、高松発着の航路便数の目標値が現状値から変わっていない。減らさないぞという目標なのだろうが、少し増やすくらいの目標数を掲げて良いのではないか。現状では、最終便の時間が早すぎて、島に忘れ物も取りに戻れない。

(委員)

23ページでは、取組の方向性ごとに対応する成果指標を示した方がいいのではないか、そういう視点で組み直しをして、方向性と指標の関連性がわかるようにできないだろうか。

KPIについては、圏域全体の経済成長の牽引の項目として、民間事業所の従業者数に加え、倒産件数や新規開業企業数などのデータを入れると

経済成長の牽引が明らかにできるのではないか。

次に、高次都市機能の集積では、公共交通だけの項目になっているが、医療サービスと高等教育の指標がとれるのであれば入れておいた方がよい。

3つ目の圏域全体の生活関連機能では、取組の方向性に掲げている取組分野の中から、他にも指標が考えられるのではないか。また、圏域におけるマネジメント能力の強化については、職員提案の数も使用できないだろうか。

なお、18ページの圏域内の交通網では、船便航路についても地図上に落としてはどうか。

(委員)

KPIが一番気になった、前回の様式の説明から、取組事業ごとに、まず成果指標の記載があって、その下に連携市町、取組内容、事業費等という構成をイメージしていたが、成果指標が、圏域の役割ごとに一まとめになってしまって、ざっくりとした印象である。

また、高次都市機能の集積強化の事業が7項目から、6項目に今回減っているが、先程の説明になかった。サンポート高松北側街区の整備事業だと思うが理由が知りたい。

取組事業では、ブランド農産物育成支援事業に小豆島町、三木町、直島町が手をあげていないということだが、ブランド農産物にはこの3町も力を入れていると思う。何故なのか知りたい。また、こども未来館学習体験事業に東かがわ市だけが手をあげていないが、手をあげる、あげないによって何か違ってくるのか。

なお、Uターン人口を増やす目的からも、子供たちの郷土愛を育む事業で具体的なものができるとありがたい。

(事務局)

KPIの作り込みについては、検討したい。

サンポート高松北側街区については、これまで取り組んできたが、当面の具体的な方向性が見えてこない状況であり今回は取り下げさせていただいた。

連携する取組事業については、各市町の事情もあると思う。これまでの懇談会で、連携市町側の意見も聞きたいという意見もあったが、来年度における課題と考えている。連携事業についてはここから広げていきたい。

こども未来館については、連携事業に手をあげていなくても当然使用できる。また、郷土愛を育む事業については、今後、連携事業としてどう取り組んでいけるものがあるか考えてみたい。

KPIについては、圏域の役割の3つの分野ごとに記載した様式を前回お示ししたが、今回は、それを1ページにまとめる様式とした。内容としては同じである。また、事業毎の設定はもともと予定していない。

(委員)

国はインバウンドを2千万人から3千万人にしようとしているが、香川県にインバウンドが何人入ってきているのかは分からない。外国の人が何人来て、その人たちが何泊して、一人当たりどの位消費してなどといったデータを実は私も知りたいのだが、なかなか分からない。分かるのは主要なホテルで何人が何泊したといった程度である。これは全国的に同じである。沖縄県であれば、飛行機と船でだいたい数がかめるが、香川県に関空から瀬戸大橋を渡って何人が来ているのか、それはビジネスなのか観光なのかは分からない。国がインバウンドをさらに広げて行こうとする中

で、香川県及びこの圏域では、どういう切り口で観光の評価を定量的に行うことが出来るのか、議論を深めていただきたい。

(委員)

16ページに大型文化芸術ホールに記載があるように、四国でも1、2を争う文化施設がある。箱物は大変すばらしいが、文化協会・団体は個別に活動しており連携がないように思う。お互いが情報共有できる全体協議会的なものがあるのだろうか。

(委員)

13ページに圏域内の大学生数が記載されているが、これほど少ないとは思わなかった。高次都市機能の集積・強化などといっているが、その前に学生数を増やすことも考えていただきたい。

(会長)

広域定住自立圏から議論をはじめ、新たな広域連携制度である連携中枢都市圏構想ということであるが、キーワードは連携である。連携とは、それぞれの、圏域、自治体の存続を前提にした上で、なおかつ自分で出来ないところをお互いに協力しあって、相乗効果を発揮させる取組だと考えている。そういう観点でもう一度このビジョンを見たときに、3市5町がお互いに情報を共有化して、認識を深めるということがいかに大事かということに改めて認識した。

4ページの構成自治体における高松市への通勤・通学の状況を見て驚いたのは、小豆島、土庄町、直島町が極端に低いことである。陸での移動に比べ、海域の移動というのは非常に少ない。これを今後どうしていくかを考えていただきたい。

7ページの従業者数からみた産業別特化係数についてであるが、この係数は分母に何を導入するかによって、その結果が大きく変わってくる。そこで、特化係数とはどういうものか、正しく理解できるように分かり易い脚注を入れていただきたい。

4ページから圏域の現状についての貴重なデータがずっと並んでいて、非常に面白いのだが、21ページの圏域の将来像と目標にきたところで断絶している。もう少しデータを分析し、過去の実績を踏まえた上で、どうするかという政策志向の考え方から論点整理をしていただきたい。

23ページの「特に取り組むべき／克服すべき課題」の記載については、それぞれの重要度がわかるようにもう少し整理できないだろうか。なお、高次の都市機能の集積・強化の取組の方向性の記載が少し抽象的である。また、生活関連機能サービスについては、連携市町とさらに相互理解を深める中で進めていただきたい。

(副会長)

もうあまり時間がないかもしれないが、せっかくデータが出ているのもう少し、結果をまとめていただきたい。インバウンドのデータというのは難しいという意見があったが、例えば宿泊者数や、圏域の免税店の増加数などのデータを載せることによって、インバウンドの分析になるのではないか。

また、誤植もあるので、委員の方に気がついたところを言っていただいて、3月の推進委員会までには修正していただきたい。

なお、以前にも申し上げたが、今後は、圏域内のどこでも、無料で、高速なWi-Fiにつながる情報インフラ整備が圏域の経済活動を高めるために必須となる。是非、取組事業に入れていただきたい。

(委員)

今後のビジョンの成果を評価するのは、懇談会となっているが、実務面に詳しい商工会議所や商工会、中央会の方などから委員になってもらってはどうか。また、新たに次世代に向けての委員を入れるのが望ましいのではないか。

(委員)

鳥獣被害対策については、圏域で取り組めば、もっと被害を小さくできるのではないか、また、空き家対策については、古い民家をうまく利用して経済の活力に利用することが出来やすい地域なのではないか、と思っている。是非そういった取り組みも検討していただきたい。

(委員)

観光プロモーション事業については、観光ガイドの育成や商店などの人々に対する語学研修なども入れた方が良い。今後海外からの観光客も考えているのであれば、早急に行うべきである。また、接客マナーに関しては、おそらく都会に比べればまだまだなのではないか、必要であれば、研修、育成をされてはどうか。

若い人たちが子育てを安心してできるように、子育て支援として、ファミリーサポート事業だけでなく、圏域内の保育所等を共同利用できるシステムにしてはどうか。

(委員)

実際この細かな取り組み事業を見ていくとなると、一つの懇談会ではなく、ある程度のセグメントの中で、分科会をつくることのできないだろうか。

観光面が情報発信というところに偏りすぎている。業者にホームページをつくらせて終わりという事業ではなく、実際の観光客を相手にする人達との事業を入れてはどうか。

(委員)

この圏域は、広域観光周遊ルートの「せとうち・海の道」、「スピリチュアルな島～四国遍路道～」に入っている。国も観光に力を入れて行こうとしている中で、小さいが成功している男木島の例など胸が張れるようなものを記載して、それをさらに広げていくような方向を記載する。問題点というのではなく、こういう小さな動きを広げていきたいという趣旨の記載があると良かった。今からでは、時間的に難しいが問題認識は持っていただきたい。

(会長)

徳島県の神山町の成功例を見ていると、この圏域には素材がたくさんあるにもかかわらず、必ずしも十分に活用されていない。そのような素材を活用していくには、その地域を訪れる人々の思いに合致するような対応を一つ一つ行っていくことが必要であろう。

議題1を終わるが、事務局は、本日の欠席委員からも意見をもらうようにすること。

議題(2)その他

【今後のスケジュールについて事務局から説明】

(会長)

事務局には、懇談会での意見を踏まえて適切な対応を願いたい。
本日の会はこれをもって終了する。